

多 度 津 町 経 済 動 向 調 査

《第 2 四半期(2023年7-9月) 調査結果》

1. 調査期間 令和5年9月1日～14日

2. 調査対象 会員 35 企業に調査票配布 (回収企業 28 回収率 80.0)

	製造	建設	卸・小売	サービス
調査対象	12	8	8	7
有効回答	10	4	7	7

3. 調査項目 今期(2023.7~9月)を基準に前年同期比、来期予測を今期比にて業況・売上高・採算・仕入単価・販売単価・従業員・資金繰りの項目について調査

※DI指数は、景況判断状況を表すもので増加・好転などの回答割合から減少、悪化などの回答割合を差し引きし、ゼロを基準としてプラス値で景気の上向き、マイナス値で景気の下向きを表す。

(仕入単価は下落-上昇、販売単価は上昇-下落、従業員は、不足-過剰の割合を差し引いて判断)

※調査項目の販売単価について2019年第1四半期調査より追加。

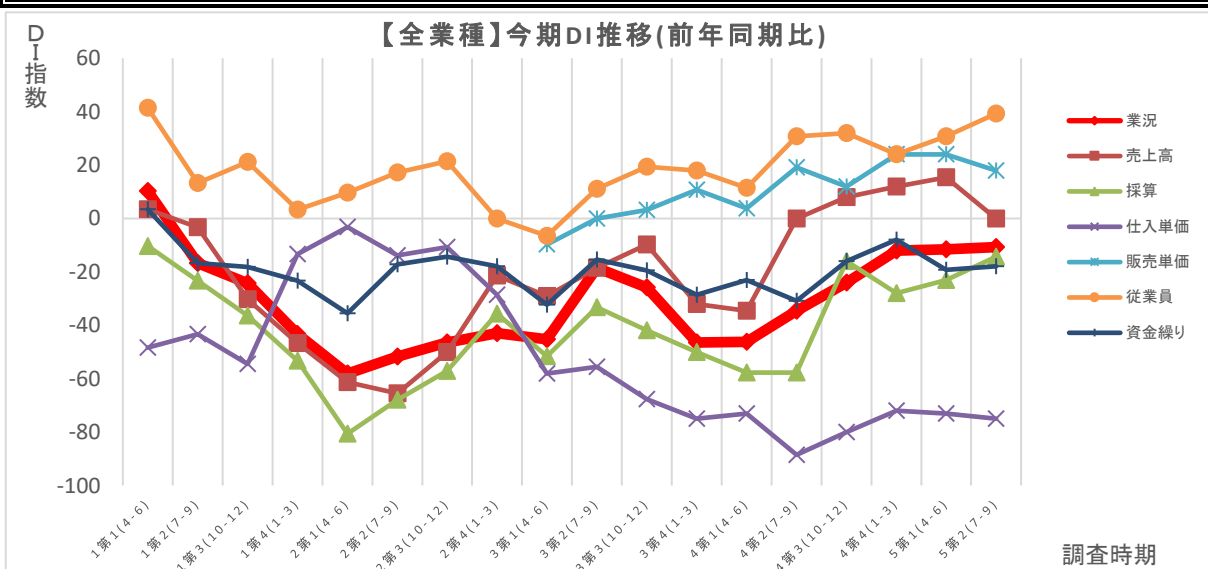
※業種分類を卸売、小売業を2020年第2四半期調査より統合。

4. 全産業(DI指数分析)

業況は原材料等の高騰が継続、売上減少するも採算向上から5期連続改善した。先行の見通しは不透明さが増し、年末需要への期待感もなく悪化を見込む

業況DI▲10.7(前期比+1.3ポイント)、売上高DI0(前期比-12.0ポイント)、採算DI▲14.3(前期比+13.7ポイント)、仕入単価DI▲78.0(前期比-3.0ポイント)、販売単価DI17.9(前期比-6.1ポイント)、従業員DI39.3(前期比+15.3ポイント)、資金繰りDI▲17.9(前期比-9.9ポイント)。

先行きの見通し(来期予測)の業況DI▲14.3(今期比-3.6ポイント)。売上高DI▲17.9(今期比-17.9ポイント)、採算DI▲21.4(今期比-7.1ポイント)、仕入単価DI▲71.4(今期比+3.6ポイント)、販売単価DI0(今期比-17.9ポイント)、従業員DI35.7(今期比-3.6ポイント)、資金繰りDI▲21.4(今期比-3.6ポイント)の結果となった。

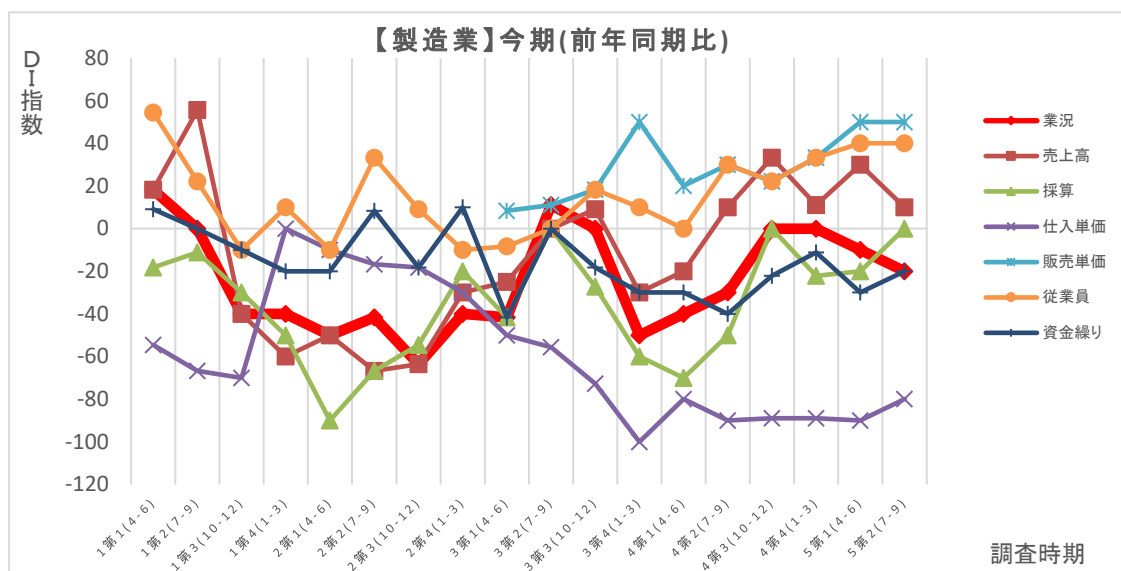


5. 業種別 (DI指数分析:前期比)

製造業↓ 業況DI▲20.0(前期比-10.0ポイント)。

売上高DI10.0(前期比-20.0ポイント)、採算DI0(前期比+20.0ポイント)、仕入単価DI▲80.0(前期比+10.0ポイント)、販売単価DI50.0(前期比+0ポイント)、従業員DI40.0(前期比+0ポイント)、資金繰りDI▲20.0(前期比+10.0ポイント)。

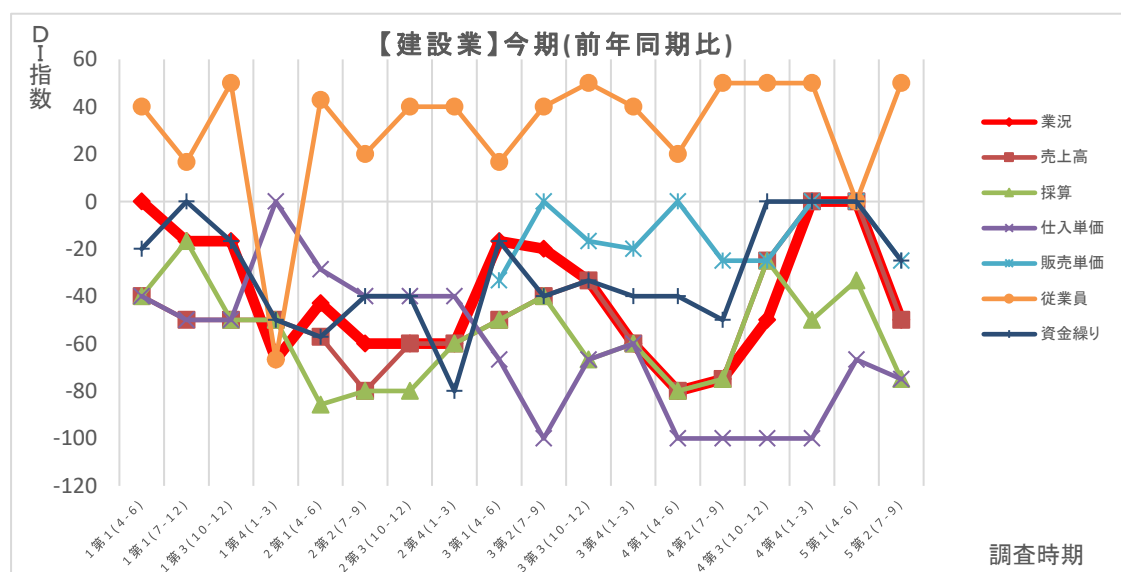
先行き(来期)見通し、業況DI▲20.0(今期比+0ポイント)横ばいを見込。



建設業↓ 業況DI▲50.0(前期比-50.0ポイント)。

売上高DI▲50.0(前期比-50.0ポイント)、採算DI▲75.0(前期比-41.7ポイント)、仕入単価DI▲75.0(前期比-8.3ポイント)、販売単価DI▲25.0(前期比-25.0ポイント)、従業員DI50.0(前期比+50.0ポイント)、資金繰りDI▲20.0(前期比+10.0ポイント)。

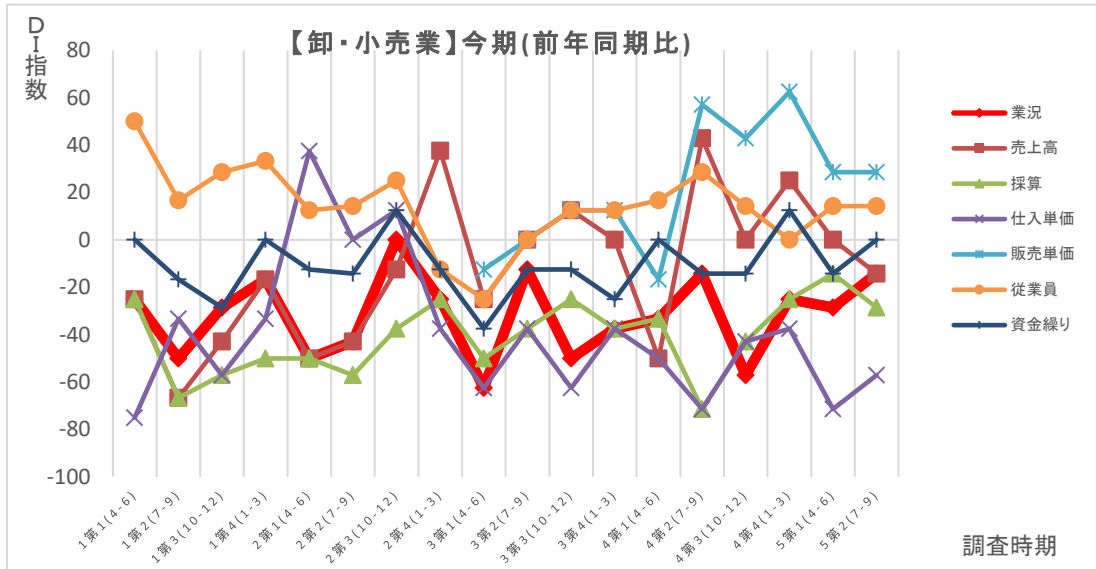
先行き(来期)見通し、業況はDI▲50.0(今期比+0ポイント)横ばいを見込。



卸・小売業↓ 業況DI▲14.3(前期比-14.3ポイント)。

売上高DI▲14.3(前期比-14.3ポイント)、採算DI▲28.6(前期比-14.3ポイント)、仕入単価DI▲57.1(前期比+14.3ポイント)、販売単価DI28.6(前期比+-0ポイント)、従業員DI14.3(前期比+-0ポイント)、資金繰りDI0(前期比+14.3ポイント)。

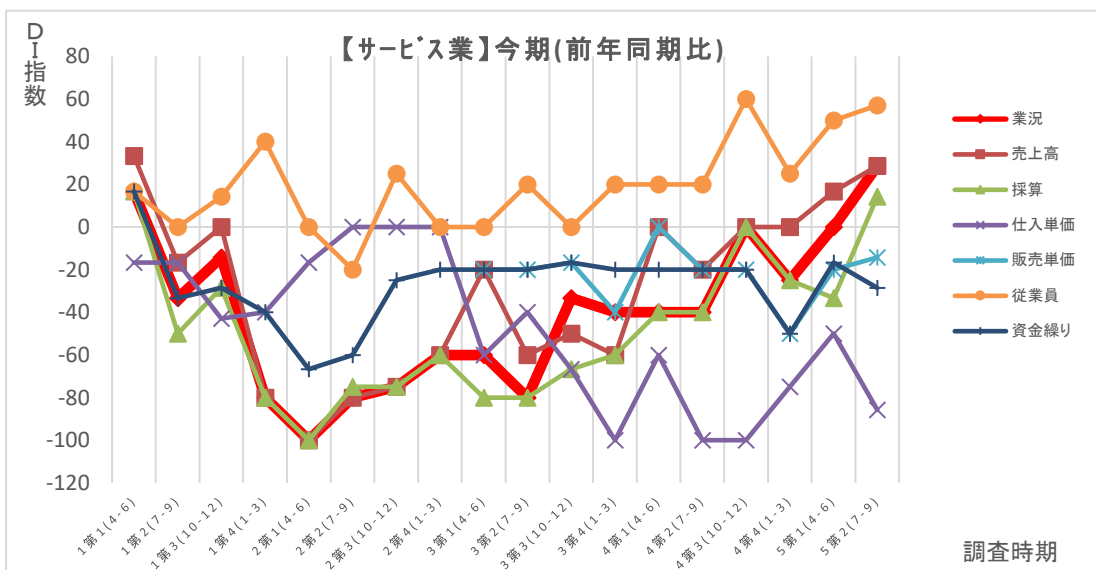
先行き(来期)見通し、業況DI▲14.3(今期比+-0ポイント)と横ばいを見込。



サービス業↑ 業況DI28.6(前期比+53.6ポイント)。

売上高DI28.6(前期比+12.0ポイント)、採算DI14.3(前期比+47.6ポイント)、仕入単価DI▲85.7(前期比-35.7ポイント)、販売単価DI▲14.3(前期比+5.7ポイント)、従業員DI57.1(前期比+32.1ポイント)、資金繰りDI▲28.6(前期比-11.9ポイント)。

先行き(来期)見通し、業況DI14.3(今期比-14.3ポイント)悪化を見込。



【業況感等コメント】

- 今期売上げは対前期比では大きな期待感はなく、特段新たな変化は感じられない。コロナの規制緩和にともない期待していた消費マインドは、当社の当該商品への追い風とはなっておらず、新規住宅着工件数の落ち込みからも理解につながる景況となっている。対して、公共投資への流れはこれから年末、年度末に向け、追い風となることを期待しており、もう少し耐え忍ぶ機関が必要かと考えている。
(製造業)
- 第3次ウッドショック及び円安によりコストの大幅な増加となり、値上げが追い付かず市況も悪化して赤字の状態が続いている。必要最低限の価格転嫁により黒字化を目指している状況となっている。
(製造業)
- インバウンドの影響もあり、販売面は緩やかではあるが上昇傾向にある。
(製造業)
- 仕入れコスト、人件費上昇分すべてではないが、一部売価改訂したことで一時期より原価率の改善がみられる。
(製造業)